

本資料のうち、枠囲みの内容は、  
営業秘密または防護上の観点から  
公開できません。

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-783 改1
提出年月日	平成30年8月15日

#### V-3-9-2-5-1-4 フィルタ装置の強度計算書

まえがき

本計算書は、添付書類「V-3-1-6 重大事故等クラス2機器及び重大事故等クラス2支持構造物の強度計算の基本方針」及び「V-3-2-9 重大事故等クラス2容器の強度計算方法」、「V-3-2-13 重大事故等クラス2支持構造物（容器）の強度計算方法」に基づいて計算を行う。

なお、適用規格の選定結果について以下に示す。適用規格の選定に当たって使用する記号及び略語については、添付書類「V-3-2-1 強度計算方法の概要」に定義したものを使用する。

・評価条件整理表

機器名	既設 or 新設	施設時の 技術基準 に対象と する施設 の規定が あるか	クラスアップするか				条件アップするか				既工認に おける 評価結果 の有無	施設時の 適用規格	評価区分	同等性 評価 区分	評価 クラス	
			クラス アップ の有無	施設時 機器 クラス	DB クラス	SA クラス	条件 アップ の有無	DB条件		SA条件						
								圧力 (MPa)	温度 (°C)	圧力 (MPa)						温度 (°C)
フィルタ装置	新規	無	—	—	—	SA-2	—	—	—	0.62	200	—	—	設計・ 建設規格	—	SA-2

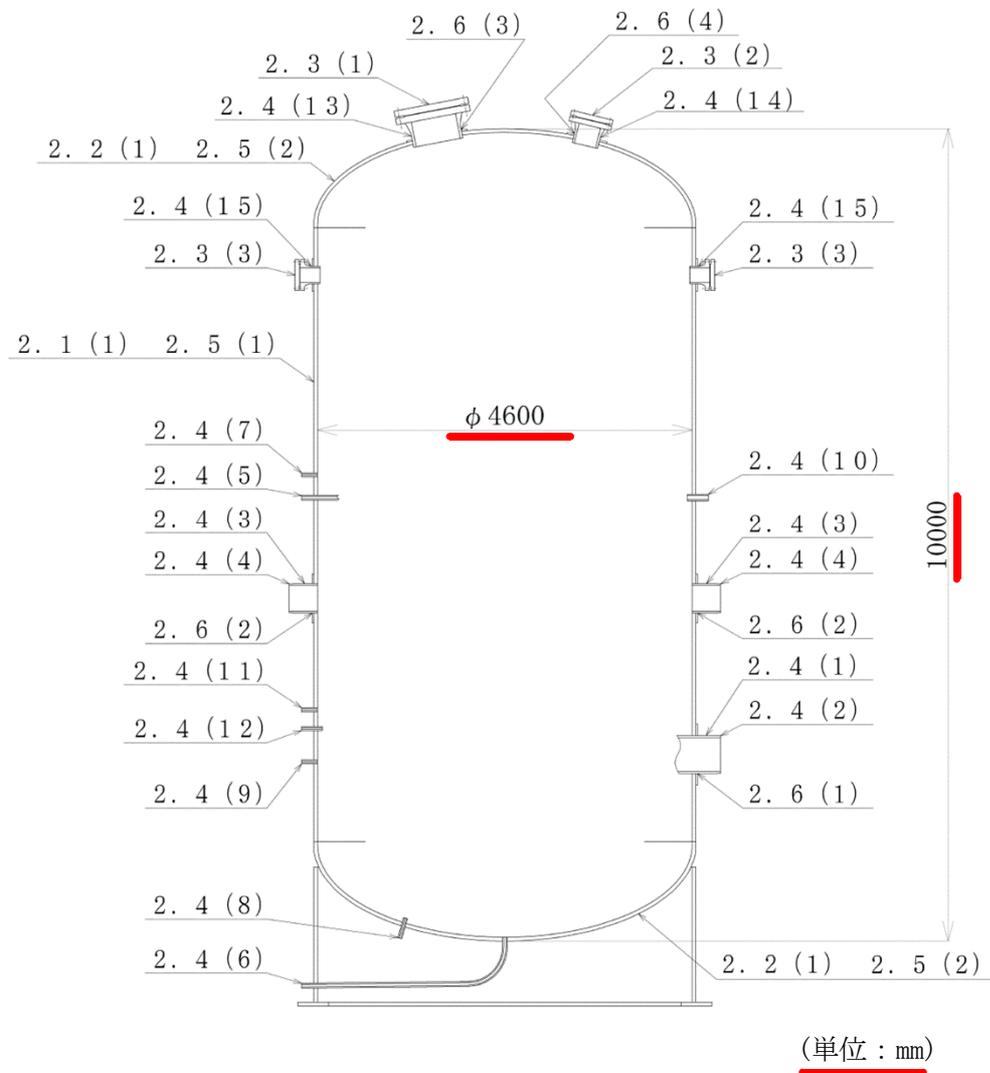
## 目 次

1. 計算条件	1
1.1 計算部位	1
1.2 設計条件	1
2. 強度計算	2
2.1 容器の胴の厚さの計算	2
2.2 容器の鏡板の厚さの計算	3
2.3 容器の平板の厚さの計算	4
2.4 容器の管台の厚さの計算	7
2.5 容器の補強を要しない穴の最大径の計算	22
2.6 容器の穴の補強計算	24
3. 支持構造物の強度計算	32

1. 計算条件

1.1 計算部位

概要図に強度計算箇所を示す。



図中の番号は次ページ以降の  
計算項目番号を示す。

図 1-1 概要図

1.2 設計条件

最高使用圧力 (MPa)	0.62
最高使用温度 (°C)	200

2. 強度計算

2.1 容器の胴の厚さの計算

設計・建設規格 PVC-3121, PVC-3122 (1)

胴板名称	(1) 胴板		
材料	SUS316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
胴の内径	D <sub>i</sub>	(mm)	4600.00
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	突合せ両側溶接		
放射線検査の有無	有り		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	1.50
必要厚さ	t <sub>2</sub>	(mm)	13.38
t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub> の大きい値	t	(mm)	13.38
呼び厚さ	t <sub>so</sub>	(mm)	30.00
最小厚さ	t <sub>s</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価: $t_s \geq t$ , よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

2.2 容器の鏡板の厚さの計算

(イ) 設計・建設規格 PVC-3210 (3)

鏡板の形状

鏡板名称		(1) 鏡板
鏡板の内面における長径	$D_{iL}$ (mm)	4600.00
鏡板の内面における短径の1/2	$h$ (mm)	1150.00
長径と短径の比	$D_{iL} / (2 \cdot h)$	2.00
評価： $D_{iL} / (2 \cdot h) \leq 2$ , よって半だ円形鏡板である。		

(ロ) 設計・建設規格 PVC-3220, PVC-3225

鏡板の厚さ

鏡板名称		(1) 鏡板
材料		SUS316L
最高使用圧力	$P$ (MPa)	0.62
最高使用温度	(°C)	200
胴の内径	$D_i$ (mm)	4600.00
半だ円形鏡板の形状による係数	$K$	1.00
許容引張応力	$S$ (MPa)	107
継手効率	$\eta$	1.00
継手の種類		突合せ両側溶接
放射線検査の有無		有り
必要厚さ	$t_1$ (mm)	13.38
必要厚さ	$t_2$ (mm)	13.34
$t_1, t_2$ の大きい値	$t$ (mm)	13.38
呼び厚さ	$t_{co}$ (mm)	30.00
最小厚さ	$t_c$ (mm)	<input type="text"/>
評価： $t_c \geq t$ , よって十分である。		

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

2.3 容器の平板の厚さの計算

(イ) 設計・建設規格 PVC-3310

取付け方法及び穴の有無

平板名称	(1) マンホール平板
平板の取付け方法	(m)
平板の穴の有無	無し

(ロ) 設計・建設規格 PVC-3310

(J I S B 8 2 6 5 附属書3適用)

平板の厚さ

平板名称	(1) マンホール平板		
平板材料	SUSF316L		
ボルト材料	SNB7 (直径63mm超え100mm以下)		
ガスケット材料	渦巻形金属ガスケット(非石綿)(ステンレス鋼)		
ガスケット厚さ	(mm)	4.5	
ガスケット座面の形状	1a-II		
最高使用圧力	P (MPa)	0.62	
最高使用温度	(°C)	200	
平板の許容引張応力	S (MPa)	107	
ボルトの許容引張応力	常温(ガスケット締付時)(20°C)	S <sub>a</sub> (MPa)	161
	最高使用温度(使用状態)	S <sub>b</sub> (MPa)	161
ボルト中心円の直径	C (mm)	812.80	
ボルト呼び	M42×3		
ボルト本数	n	24	
ボルト谷径	d <sub>b</sub> (mm)	38.752	
実際のボルト総有効断面積	A <sub>b</sub> (mm <sup>2</sup> )	2.831×10 <sup>4</sup>	
ガスケット接触面の外径	G <sub>s</sub> (mm)	685.80	
ガスケット接触面の幅	N (mm)	28.55	
ガスケット係数	m	3.00	
最小設計締付圧力	y (N/mm <sup>2</sup> )	68.9	
ガスケット座の基本幅	b <sub>o</sub> (mm)	14.28	
ガスケット座の有効幅	b (mm)	9.52	
平板の径(ガスケット有効径)	d = G (mm)	666.76	
内圧による全荷重	W = H (N)	2.165×10 <sup>5</sup>	
使用状態での最小ボルト荷重	W <sub>m1</sub> (N)	2.907×10 <sup>5</sup>	
ガスケット締付最小ボルト荷重	W <sub>m2</sub> (N)	1.374×10 <sup>6</sup>	
ボルトの所要総有効断面積	使用状態	A <sub>m1</sub> (mm <sup>2</sup> )	1.805×10 <sup>3</sup>
	ガスケット締付時	A <sub>m2</sub> (mm <sup>2</sup> )	8.535×10 <sup>3</sup>
	いずれか大きい値	A <sub>m</sub> (mm <sup>2</sup> )	8.535×10 <sup>3</sup>
ボルト荷重	使用状態	W <sub>o</sub> (N)	2.907×10 <sup>5</sup>
	ガスケット締付時	W <sub>g</sub> (N)	2.966×10 <sup>6</sup>
	いずれか大きい値	F (N)	2.966×10 <sup>6</sup>
モーメントアーム	h <sub>g</sub> (mm)	73.02	
取付け方法による係数	K	1.70	
必要厚さ	t (mm)	66.19	
呼び厚さ	t <sub>p o</sub> (mm)	83.20	
最小厚さ	t <sub>p</sub> (mm)		
評価: t <sub>p</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の平板の厚さの計算  
 (イ) 設計・建設規格 PVC-3310  
 取付け方法及び穴の有無

平板名称	(2) 換気口平板
平板の取付け方法	(m)
平板の穴の有無	無し

(ロ) 設計・建設規格 PVC-3310  
 (J I S B 8 2 6 5 附属書3適用)

平板の厚さ

平板名称	(2) 換気口平板	
平板材料	SUSF316L	
ボルト材料	SNB7 (直径63mm以下)	
ガスケット材料	渦巻形金属ガスケット(非石綿)(ステンレス鋼)	
ガスケット厚さ (mm)	4.5	
ガスケット座面の形状	1a-II	
最高使用圧力 P (MPa)	0.62	
最高使用温度 (°C)	200	
平板の許容引張応力 S (MPa)	107	
ボルトの許容引張応力	常温(ガスケット締付時)(20°C)	S <sub>a</sub> (MPa) 173
	最高使用温度(使用状態)	S <sub>b</sub> (MPa) 173
ボルト中心円の直径 C (mm)	450.90	
ボルト呼び	M30×3	
ボルト本数 n	16	
ボルト谷径 d <sub>b</sub> (mm)	26.752	
実際のボルト総有効断面積 A <sub>b</sub> (mm <sup>2</sup> )	8.993×10 <sup>3</sup>	
ガスケット接触面の外径 G <sub>s</sub> (mm)	374.70	
ガスケット接触面の幅 N (mm)	23.75	
ガスケット係数 m	3.00	
最小設計締付圧力 y (N/mm <sup>2</sup> )	68.9	
ガスケット座の基本幅 b <sub>o</sub> (mm)	11.88	
ガスケット座の有効幅 b (mm)	8.68	
平板の径(ガスケット有効径) d = G (mm)	357.33	
内圧による全荷重 W = H (N)	6.218×10 <sup>4</sup>	
使用状態での最小ボルト荷重 W <sub>m1</sub> (N)	9.844×10 <sup>4</sup>	
ガスケット締付最小ボルト荷重 W <sub>m2</sub> (N)	6.717×10 <sup>5</sup>	
ボルトの所要総有効断面積	使用状態	A <sub>m1</sub> (mm <sup>2</sup> ) 569.0
	ガスケット締付時	A <sub>m2</sub> (mm <sup>2</sup> ) 3.883×10 <sup>3</sup>
	いずれか大きい値	A <sub>m</sub> (mm <sup>2</sup> ) 3.883×10 <sup>3</sup>
ボルト荷重	使用状態	W <sub>o</sub> (N) 9.844×10 <sup>4</sup>
	ガスケット締付時	W <sub>g</sub> (N) 1.114×10 <sup>6</sup>
	いずれか大きい値	F (N) 1.114×10 <sup>6</sup>
モーメントアーム h <sub>g</sub> (mm)	46.78	
取付け方法による係数 K	2.55	
必要厚さ t (mm)	43.40	
呼び厚さ t <sub>p o</sub> (mm)	64.10	
最小厚さ t <sub>p</sub> (mm)		
評価: t <sub>p</sub> ≥ t, よって十分である。		

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の平板の厚さの計算  
 (イ) 設計・建設規格 PVC-3310  
 取付け方法及び穴の有無

平板名称	(3) モレキュラシーブ採取口平板
平板の取付け方法	(m)
平板の穴の有無	無し

(ロ) 設計・建設規格 PVC-3310  
 (J I S B 8 2 6 5 附属書3適用)

平板の厚さ

平板名称	(3) モレキュラシーブ採取口平板	
平板材料	SUSF316L	
ボルト材料	SNB7 (直径63mm以下)	
ガスケット材料	渦巻形金属ガスケット(非石綿)(ステンレス鋼)	
ガスケット厚さ	(mm)	4.5
ガスケット座面の形状	1a-II	
最高使用圧力	P (MPa)	0.62
最高使用温度	(°C)	200
平板の許容引張応力	S (MPa)	107
ボルトの許容引張応力	常温(ガスケット締付時)(20°C)	S <sub>a</sub> (MPa) 173
	最高使用温度(使用状態)	S <sub>b</sub> (MPa) 173
ボルト中心円の直径	C (mm)	330.20
ボルト呼び	M24	
ボルト本数	n	12
ボルト谷径	d <sub>b</sub> (mm)	20.752
実際のボルト総有効断面積	A <sub>b</sub> (mm <sup>2</sup> )	4.059×10 <sup>3</sup>
ガスケット接触面の外径	G <sub>s</sub> (mm)	263.70
ガスケット接触面の幅	N (mm)	19.05
ガスケット係数	m	3.00
最小設計締付圧力	y (N/mm <sup>2</sup> )	68.9
ガスケット座の基本幅	b <sub>o</sub> (mm)	9.53
ガスケット座の有効幅	b (mm)	7.78
平板の径(ガスケット有効径)	d = G (mm)	248.15
内圧による全荷重	W = H (N)	2.998×10 <sup>4</sup>
使用状態での最小ボルト荷重	W <sub>m1</sub> (N)	5.254×10 <sup>4</sup>
ガスケット締付最小ボルト荷重	W <sub>m2</sub> (N)	4.177×10 <sup>5</sup>
ボルトの所要総有効断面積	使用状態	A <sub>m1</sub> (mm <sup>2</sup> ) 303.7
	ガスケット締付時	A <sub>m2</sub> (mm <sup>2</sup> ) 2.415×10 <sup>3</sup>
	いずれか大きい値	A <sub>m</sub> (mm <sup>2</sup> ) 2.415×10 <sup>3</sup>
ボルト荷重	使用状態	W <sub>o</sub> (N) 5.254×10 <sup>4</sup>
	ガスケット締付時	W <sub>g</sub> (N) 5.600×10 <sup>5</sup>
	いずれか大きい値	F (N) 5.600×10 <sup>5</sup>
モーメントアーム	h <sub>g</sub> (mm)	41.03
取付け方法による係数	K	3.29
必要厚さ	t (mm)	34.25
呼び厚さ	t <sub>p o</sub> (mm)	54.70
最小厚さ	t <sub>p</sub> (mm)	
評価: t <sub>p</sub> ≥ t, よって十分である。		

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

2.4 容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(1) ベントガス入口		
材料	SUSF316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	468.60
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	1.36
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	1.36
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	20.00
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(2) ベントガス入口		
材料	SUSF316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	457.20
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	1.33
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	1.33
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	14.30
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(3) ベントガス出口		
材料	SUSF316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	363.40
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	1.05
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	1.05
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	15.00
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(4) ベントガス出口		
材料	SUSF316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	355.60
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	1.03
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	1.03
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	11.10
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(5) 補給水入口		
材料	SUS316LTP-S		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	60.50
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.18
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.18
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	3.90
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(6) ドレン		
材料	SUS316LTP-S		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	60.50
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.18
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.18
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	3.90
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(7) 液位計		
材料	SUS316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	50.00
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.15
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.15
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	11.15
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(8) 液位計		
材料	SUS316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	50.00
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.15
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.15
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	11.15
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(9) 試料採取		
材料	SUS316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	50.00
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.15
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.15
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	11.15
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(10) 出口配管ドレン入口		
材料	SUS316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	80.00
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.24
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.24
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	15.45
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(11) モレキュラシーブ室ドレン		
材料	SUS316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	50.00
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.15
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.15
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	11.15
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(12) モレキュラシーブ室ドレン		
材料	SUS316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	50.00
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.15
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.15
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	11.15
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
 設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(13) マンホール		
材料	SUSF316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	609.60
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	1.77
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	1.77
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	20.00
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(14) 換気口		
材料	SUSF316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	318.50
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.92
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.92
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	17.40
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の管台の厚さの計算  
設計・建設規格 PVC-3610

管台名称	(15) モレキュラシーブ採取口		
材料	SUSF316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
管台の外径	D <sub>o</sub>	(mm)	216.30
許容引張応力	S	(MPa)	107
継手効率	$\eta$		1.00
継手の種類	継手無し		
放射線検査の有無	—		
必要厚さ	t <sub>1</sub>	(mm)	0.63
必要厚さ	t <sub>3</sub>	(mm)	—
t <sub>1</sub> , t <sub>3</sub> の大きい値	t	(mm)	0.63
呼び厚さ	t <sub>no</sub>	(mm)	12.70
最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	<input type="text"/>
評価：t <sub>n</sub> ≥ t, よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

2.5 容器の補強を要しない穴の最大径の計算  
設計・建設規格 PVC-3150(2)

胴板名称		(1) 胴板
材料		SUS316L
最高使用圧力	P (MPa)	0.62
最高使用温度	(°C)	200
胴の外径	D (mm)	4660.00
許容引張応力	S (MPa)	107
胴板の最小厚さ	$t_s$ (mm)	<input type="text"/>
継手効率	$\eta$	1.00
継手の種類		継手無し
放射線検査の有無		—
$d_{r1} = (D - 2 \cdot t_s) / 4$	(mm)	<input type="text"/>
61, $d_{r1}$ の小さい値	(mm)	61.00
K		<input type="text"/>
$D \cdot t_s$	(mm <sup>2</sup> )	<input type="text"/>
200, $d_{r2}$ の小さい値	(mm)	200.00
補強を要しない穴の最大径	(mm)	200.00
評価：補強の計算を要する穴の名称		ベントガス入口(2.6(1)) ベントガス出口(2.6(2))

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

容器の補強を要しない穴の最大径の計算  
設計・建設規格 PVC-3230(2)

鏡板名称		(2) 鏡板
材料		SUS316L
最高使用圧力	P (MPa)	0.62
最高使用温度	(°C)	200
鏡板のフランジ部の外径	D (mm)	4660.00
許容引張応力	S (MPa)	107
鏡板の最小厚さ	$t_c$ (mm)	<input type="text"/>
継手効率	$\eta$	1.00
継手の種類		継手無し
放射線検査の有無		—
$d_{r1} = (D - 2 \cdot t_c) / 4$	(mm)	<input type="text"/>
61, $d_{r1}$ の小さい値	(mm)	61.00
K		<input type="text"/>
$D \cdot t_c$	(mm <sup>2</sup> )	<input type="text"/>
200, $d_{r2}$ の小さい値	(mm)	200.00
補強を要しない穴の最大径	(mm)	200.00
評価：補強の計算を要する穴の名称		マンホール(2.6(3)) 換気口(2.6(4))

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

2.6 容器の穴の補強計算  
設計・建設規格 PVC-3160

参照附图 WELD-11

部材名称		(1) ベントガス入口	
胴板材料		SUS316L	
管台材料		SUSF316L	
強め板材料		SUS316L	
最高使用圧力	P (MPa)	0.62	
最高使用温度	(°C)	200	
胴板の許容引張応力	S <sub>s</sub> (MPa)	107	
管台の許容引張応力	S <sub>n</sub> (MPa)	107	
強め板の許容引張応力	S <sub>e</sub> (MPa)	107	
穴の径	d (mm)		
管台が取り付く穴の径	d <sub>w</sub> (mm)	478.60	
胴板の最小厚さ	t <sub>s</sub> (mm)		
管台の最小厚さ	t <sub>n</sub> (mm)		
胴板の継手効率	η	1.00	
係数	F	1.00	
胴の内径	D <sub>i</sub> (mm)	4600.00	
胴板の計算上必要な厚さ	t <sub>s r</sub> (mm)	13.38	
管台の計算上必要な厚さ	t <sub>n r</sub> (mm)		
穴の補強に必要な面積	A <sub>r</sub> (mm <sup>2</sup> )		
補強の有効範囲	X <sub>1</sub> (mm)		
補強の有効範囲	X <sub>2</sub> (mm)		
補強の有効範囲	X (mm)		
補強の有効範囲	Y <sub>1</sub> (mm)		
補強の有効範囲	Y <sub>2</sub> (mm)		
強め板の最小厚さ	t <sub>e</sub> (mm)		
強め板の外径	B <sub>e</sub> (mm)	750.00	
管台の外径	D <sub>o n</sub> (mm)	468.60	
溶接寸法	L <sub>1</sub> (mm)	9.00	
溶接寸法	L <sub>2</sub> (mm)	14.00	
溶接寸法	L <sub>3</sub> (mm)	19.00	
胴板の有効補強面積	A <sub>1</sub> (mm <sup>2</sup> )		
管台の有効補強面積	A <sub>2</sub> (mm <sup>2</sup> )		
すみ肉溶接部の有効補強面積	A <sub>3</sub> (mm <sup>2</sup> )	638.0	
強め板の有効補強面積	A <sub>4</sub> (mm <sup>2</sup> )		
補強に有効な総面積	A <sub>0</sub> (mm <sup>2</sup> )	1.570×10 <sup>4</sup>	
評価：A <sub>0</sub> > A <sub>r</sub> ，よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

部材名称	(1) ベントガス入口	
大きい穴の補強		
補強を要する穴の限界径	$d_j$ (mm)	1000.00
評価： $d \leq d_j$ ，よって大きい穴の補強計算は必要ない。		
溶接部にかかる荷重	$W_1$ (N)	$1.033 \times 10^6$
溶接部にかかる荷重	$W_2$ (N)	
溶接部の負うべき荷重	$W$ (N)	
すみ肉溶接の許容せん断応力	$S_{w1}$ (MPa)	49
突合せ溶接の許容せん断応力	$S_{w2}$ (MPa)	60
突合せ溶接の許容引張応力	$S_{w3}$ (MPa)	75
管台壁の許容せん断応力	$S_{w4}$ (MPa)	75
応力除去の有無		無し
すみ肉溶接の許容せん断応力係数	$F_1$	0.46
突合せ溶接の許容せん断応力係数	$F_2$	0.56
突合せ溶接の許容引張応力係数	$F_3$	0.70
管台壁の許容せん断応力係数	$F_4$	0.70
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e1}$ (N)	$3.261 \times 10^5$
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e2}$ (N)	$6.884 \times 10^5$
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e3}$ (N)	$8.118 \times 10^5$
突合せ溶接部のせん断力	$W_{e4}$ (N)	$2.205 \times 10^5$
突合せ溶接部の引張力	$W_{e8}$ (N)	
突合せ溶接部の引張力	$W_{e9}$ (N)	
管台のせん断力	$W_{e10}$ (N)	$9.898 \times 10^5$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp1}$ (N)	$1.721 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp2}$ (N)	$1.997 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp3}$ (N)	$1.912 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp4}$ (N)	$2.022 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp5}$ (N)	$1.316 \times 10^6$
評価： $W_{ebp1} \geq W$ ， $W_{ebp2} \geq W$ ， $W_{ebp3} \geq W$ ， $W_{ebp4} \geq W$ ， $W_{ebp5} \geq W$ 以上より十分である。		

容器の穴の補強計算  
設計・建設規格 PVC-3160

参照附図 WELD-14'

部材名称		(2) ベントガス出口	
胴板材料		SUS316L	
管台材料		SUSF316L	
強め板材料		SUS316L	
最高使用圧力	P (MPa)	0.62	
最高使用温度	(°C)	200	
胴板の許容引張応力	$S_s$ (MPa)	107	
管台の許容引張応力	$S_n$ (MPa)	107	
強め板の許容引張応力	$S_e$ (MPa)	107	
穴の径	d (mm)		
管台が取り付く穴の径	$d_w$ (mm)	373.40	
胴板の最小厚さ	$t_s$ (mm)		
管台の最小厚さ	$t_n$ (mm)		
胴板の継手効率	$\eta$	1.00	
係数	F	1.00	
胴の内径	$D_i$ (mm)	4600.00	
胴板の計算上必要な厚さ	$t_{sr}$ (mm)	13.38	
管台の計算上必要な厚さ	$t_{nr}$ (mm)		
穴の補強に必要な面積	$A_r$ (mm <sup>2</sup> )		
補強の有効範囲	$X_1$ (mm)		
補強の有効範囲	$X_2$ (mm)		
補強の有効範囲	X (mm)		
補強の有効範囲	$Y_1$ (mm)		
強め板の最小厚さ	$t_e$ (mm)		
強め板の外径	$B_e$ (mm)	600.00	
管台の外径	$D_{on}$ (mm)	363.40	
溶接寸法	$L_1$ (mm)	9.00	
溶接寸法	$L_2$ (mm)	11.00	
溶接寸法	$L_4$ (mm)	11.00	
胴板の有効補強面積	$A_1$ (mm <sup>2</sup> )		
管台の有効補強面積	$A_2$ (mm <sup>2</sup> )		
すみ肉溶接部の有効補強面積	$A_3$ (mm <sup>2</sup> )	202.0	
強め板の有効補強面積	$A_4$ (mm <sup>2</sup> )		
補強に有効な総面積	$A_0$ (mm <sup>2</sup> )	$1.046 \times 10^4$	
評価： $A_0 > A_r$ ，よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

部材名称		(2) ベントガス出口
大きい穴の補強		
補強を要する穴の限界径	$d_j$ (mm)	1000.00
評価： $d \leq d_j$ ，よって大きい穴の補強計算は必要ない。		
溶接部にかかる荷重	$W_1$ (N)	$6.144 \times 10^5$
溶接部にかかる荷重	$W_2$ (N)	
溶接部の負うべき荷重	$W$ (N)	
すみ肉溶接の許容せん断応力	$S_{w1}$ (MPa)	49
突合せ溶接の許容せん断応力	$S_{w2}$ (MPa)	60
突合せ溶接の許容引張応力	$S_{w3}$ (MPa)	75
管台壁の許容せん断応力	$S_{w4}$ (MPa)	75
応力除去の有無		無し
すみ肉溶接の許容せん断応力係数	$F_1$	0.46
突合せ溶接の許容せん断応力係数	$F_2$	0.56
突合せ溶接の許容引張応力係数	$F_3$	0.70
管台壁の許容せん断応力係数	$F_4$	0.70
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e1}$ (N)	$2.529 \times 10^5$
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e3}$ (N)	$5.103 \times 10^5$
突合せ溶接部のせん断力	$W_{e4}$ (N)	$1.710 \times 10^5$
突合せ溶接部の引張力	$W_{e6}$ (N)	
突合せ溶接部の引張力	$W_{e8}$ (N)	
突合せ溶接部の引張力	$W_{e9}$ (N)	
管台のせん断力	$W_{e10}$ (N)	$5.637 \times 10^5$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp1}$ (N)	$1.152 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp2}$ (N)	$1.485 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp3}$ (N)	$1.424 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp4}$ (N)	$1.245 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp5}$ (N)	$8.165 \times 10^5$
評価： $W_{ebp1} \geq W$ ， $W_{ebp2} \geq W$ ， $W_{ebp3} \geq W$ ， $W_{ebp4} \geq W$ ， $W_{ebp5} \geq W$ 以上より十分である。		

容器の穴の補強計算  
設計・建設規格 PVC-3240

参照附図 WELD-41

部材名称	(3) マンホール		
鏡板材料	SUS316L		
管台材料	SUSF316L		
強め板材料	SUS316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
鏡板の許容引張応力	$S_c$	(MPa)	107
管台の許容引張応力	$S_n$	(MPa)	107
強め板の許容引張応力	$S_e$	(MPa)	107
穴の径	d	(mm)	
管台が取り付く穴の径	$d_w$	(mm)	619.60
鏡板の最小厚さ	$t_c$	(mm)	
管台の最小厚さ	$t_n$	(mm)	
鏡板の継手効率	$\eta$		1.00
係数	F		1.00
鏡板の中央部における内半径	R	(mm)	4140.00
鏡板の計算上必要な厚さ	$t_{cr}$	(mm)	12.01
管台の計算上必要な厚さ	$t_{nr}$	(mm)	
穴の補強に必要な面積	$A_r$	(mm <sup>2</sup> )	
補強の有効範囲	$X_1$	(mm)	
補強の有効範囲	$X_2$	(mm)	
補強の有効範囲	X	(mm)	
補強の有効範囲	$Y_1$	(mm)	
補強の有効範囲	$Y_2$	(mm)	
強め板の最小厚さ	$t_e$	(mm)	
強め板の外径	$B_e$	(mm)	898.00
管台の外径	$D_{on}$	(mm)	609.60
溶接寸法	$L_1$	(mm)	9.00
溶接寸法	$L_2$	(mm)	14.00
溶接寸法	$L_3$	(mm)	19.00
鏡板の有効補強面積	$A_1$	(mm <sup>2</sup> )	
管台の有効補強面積	$A_2$	(mm <sup>2</sup> )	
すみ肉溶接部の有効補強面積	$A_3$	(mm <sup>2</sup> )	638.0
強め板の有効補強面積	$A_4$	(mm <sup>2</sup> )	
補強に有効な総面積	$A_0$	(mm <sup>2</sup> )	$1.581 \times 10^4$
評価： $A_0 > A_r$ ，よって十分である。			

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

部材名称	(3) マンホール		
大きい穴の補強			
補強を要する穴の限界径	$d_j$	(mm)	1000.00
評価： $d \leq d_j$ ，よって大きい穴の補強計算は必要ない。			
溶接部にかかる荷重	$W_1$	(N)	$1.015 \times 10^6$
溶接部にかかる荷重	$W_2$	(N)	
溶接部の負うべき荷重	$W$	(N)	
すみ肉溶接の許容せん断応力	$S_{w1}$	(MPa)	49
突合せ溶接の許容せん断応力	$S_{w2}$	(MPa)	60
突合せ溶接の許容引張応力	$S_{w3}$	(MPa)	75
管台壁の許容せん断応力	$S_{w4}$	(MPa)	75
応力除去の有無	無し		
すみ肉溶接の許容せん断応力係数	$F_1$		0.46
突合せ溶接の許容せん断応力係数	$F_2$		0.56
突合せ溶接の許容引張応力係数	$F_3$		0.70
管台壁の許容せん断応力係数	$F_4$		0.70
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e1}$	(N)	$4.242 \times 10^5$
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e2}$	(N)	$8.955 \times 10^5$
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e3}$	(N)	$9.720 \times 10^5$
突合せ溶接部のせん断力	$W_{e4}$	(N)	$2.869 \times 10^5$
突合せ溶接部の引張力	$W_{e8}$	(N)	
突合せ溶接部の引張力	$W_{e9}$	(N)	
管台のせん断力	$W_{e10}$	(N)	$1.300 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp1}$	(N)	$2.154 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp2}$	(N)	$2.597 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp3}$	(N)	$2.481 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp4}$	(N)	$2.559 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp5}$	(N)	$1.724 \times 10^6$
評価： $W_{ebp1} \geq W$ ， $W_{ebp2} \geq W$ ， $W_{ebp3} \geq W$ ， $W_{ebp4} \geq W$ ， $W_{ebp5} \geq W$ 以上より十分である。			

容器の穴の補強計算  
設計・建設規格 PVC-3240

参照附図 W E L D - 4 1

NT2 補② V-3-9-2-5-1-4 R2

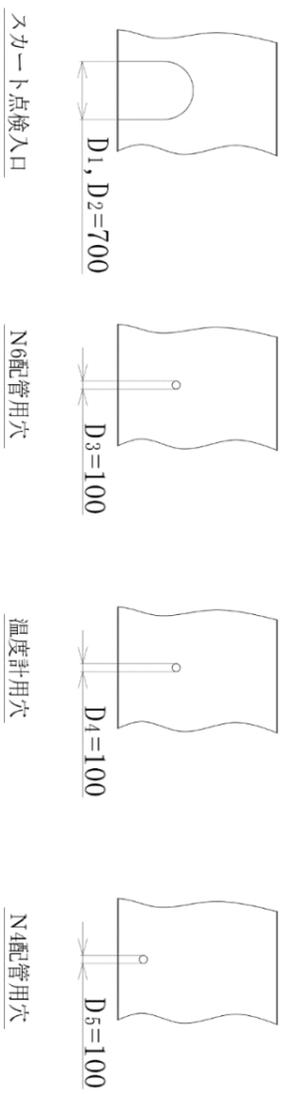
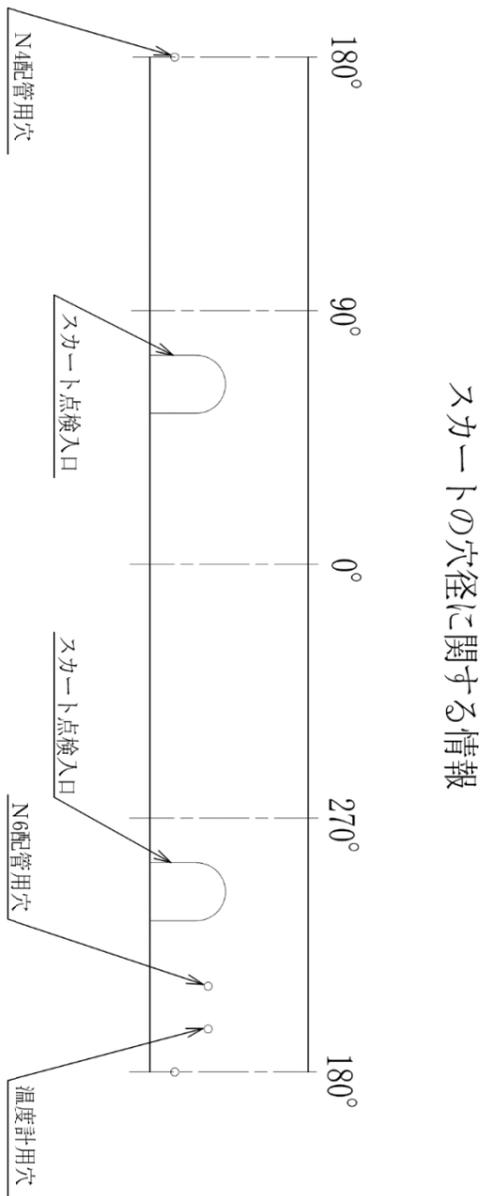
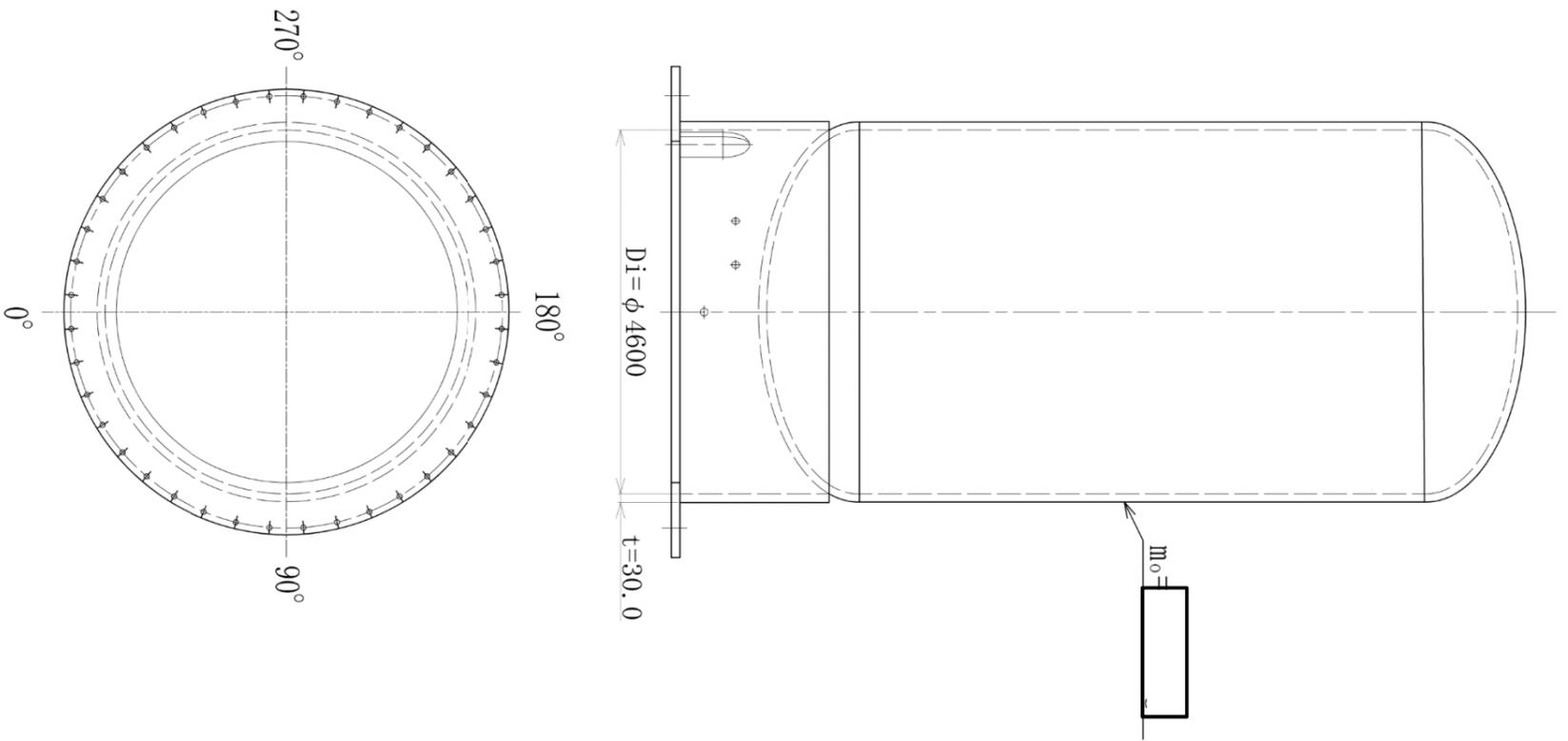
部材名称	(4) 換気口		
鏡板材料	SUS316L		
管台材料	SUSF316L		
強め板材料	SUS316L		
最高使用圧力	P	(MPa)	0.62
最高使用温度		(°C)	200
鏡板の許容引張応力	S <sub>c</sub>	(MPa)	107
管台の許容引張応力	S <sub>n</sub>	(MPa)	107
強め板の許容引張応力	S <sub>e</sub>	(MPa)	107
穴の径	d	(mm)	
管台が取り付く穴の径	d <sub>w</sub>	(mm)	328.50
鏡板の最小厚さ	t <sub>c</sub>	(mm)	
管台の最小厚さ	t <sub>n</sub>	(mm)	
鏡板の継手効率	η		1.00
係数	F		1.00
鏡板の中央部における内半径	R	(mm)	4140.00
鏡板の計算上必要な厚さ	t <sub>c r</sub>	(mm)	12.01
管台の計算上必要な厚さ	t <sub>n r</sub>	(mm)	
穴の補強に必要な面積	A <sub>r</sub>	(mm <sup>2</sup> )	
補強の有効範囲	X <sub>1</sub>	(mm)	
補強の有効範囲	X <sub>2</sub>	(mm)	
補強の有効範囲	X	(mm)	
補強の有効範囲	Y <sub>1</sub>	(mm)	
補強の有効範囲	Y <sub>2</sub>	(mm)	
強め板の最小厚さ	t <sub>e</sub>	(mm)	
強め板の外径	B <sub>e</sub>	(mm)	498.00
管台の外径	D <sub>o n</sub>	(mm)	318.50
溶接寸法	L <sub>1</sub>	(mm)	9.00
溶接寸法	L <sub>2</sub>	(mm)	13.00
溶接寸法	L <sub>3</sub>	(mm)	18.00
鏡板の有効補強面積	A <sub>1</sub>	(mm <sup>2</sup> )	
管台の有効補強面積	A <sub>2</sub>	(mm <sup>2</sup> )	
すみ肉溶接部の有効補強面積	A <sub>3</sub>	(mm <sup>2</sup> )	574.0
強め板の有効補強面積	A <sub>4</sub>	(mm <sup>2</sup> )	
補強に有効な総面積	A <sub>0</sub>	(mm <sup>2</sup> )	9.991×10 <sup>3</sup>
評価：A <sub>0</sub> > A <sub>r</sub> ，よって十分である。			

部材名称	(4) 換気口		
大きい穴の補強			
補強を要する穴の限界径	$d_j$	(mm)	1000.00
評価： $d \leq d_j$ ，よって大きい穴の補強計算は必要ない。			
溶接部にかかる荷重	$W_1$	(N)	$7.305 \times 10^5$
溶接部にかかる荷重	$W_2$	(N)	
溶接部の負うべき荷重	$W$	(N)	
すみ肉溶接の許容せん断応力	$S_{w1}$	(MPa)	49
突合せ溶接の許容せん断応力	$S_{w2}$	(MPa)	60
突合せ溶接の許容引張応力	$S_{w3}$	(MPa)	75
管台壁の許容せん断応力	$S_{w4}$	(MPa)	75
応力除去の有無	無し		
すみ肉溶接の許容せん断応力係数	$F_1$		0.46
突合せ溶接の許容せん断応力係数	$F_2$		0.56
突合せ溶接の許容引張応力係数	$F_3$		0.70
管台壁の許容せん断応力係数	$F_4$		0.70
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e1}$	(N)	$2.216 \times 10^5$
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e2}$	(N)	$4.432 \times 10^5$
すみ肉溶接部のせん断力	$W_{e3}$	(N)	$5.005 \times 10^5$
突合せ溶接部のせん断力	$W_{e4}$	(N)	$1.499 \times 10^5$
突合せ溶接部の引張力	$W_{e8}$	(N)	
突合せ溶接部の引張力	$W_{e9}$	(N)	
管台のせん断力	$W_{e10}$	(N)	$5.728 \times 10^5$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp1}$	(N)	$1.094 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp2}$	(N)	$1.332 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp3}$	(N)	$1.282 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp4}$	(N)	$1.223 \times 10^6$
予想される破断箇所の強さ	$W_{ebp5}$	(N)	$7.944 \times 10^5$
評価： $W_{ebp1} \geq W$ ， $W_{ebp2} \geq W$ ， $W_{ebp3} \geq W$ ， $W_{ebp4} \geq W$ ， $W_{ebp5} \geq W$ 以上より十分である。			

3. 支持構造物の強度計算

1. 一次圧縮応力評価

種類	脚本数	材料	最高使用温度 (°C)	F 値 (MPa)	鉛直荷重 $F_c$ (N)	断面積 $A$ (mm <sup>2</sup> )	一次圧縮応力 $\sigma_c$ (MPa)	許容圧縮応力 $f_c$ (MPa)	評価
スカート支持 たて置円筒形容器	—	<input type="text"/>	200	<input type="text"/>					$\sigma_c$ は $f_c$ 以下である ので、支持構造物の 強度は十分である。



(単位：mm)

フリルタ装置 支持構造物の強度計算説明図